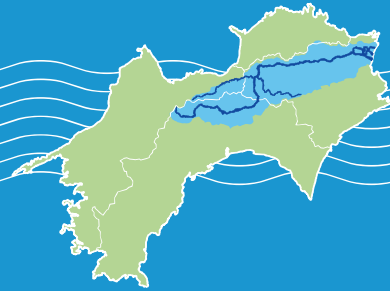


恵みの川 されど暴れ川

# Our よしのがわ



2017.6  
Vol.13

国土交通省 徳島河川国道事務所 発刊



## 本格的な大雨のシーズンに備える吉野川



平成29年度 吉野川・那賀川合同総合水防演習

## ■Vol.13コンテンツ

【連載】

- ・吉野川お散歩紀行 ～自然と歴史あふれる川に近づけるまち東みよし町～  
(案内図①)
- ・吉野川で遊ぼう！！ ～吉野川パラグライダー～ (案内図②)
- ・吉野川歴史探訪 ～ヨハネス・デ・レーケ(その1)～
- ・市町村長に聴く ～水害を我がこととしてとらえる～  
《第8回 川真田吉野川市長に聴きました》
- ・吉野川講座 (そうだったのか！？河川管理 ～樹木管理編～)

【事務所だより】

- ・平成29年度 吉野川・那賀川合同総合水防演習を開催！ **（案内図③）**
- ・吉野川上流・下流大規模氾濫に関する減災対策協議会 第3回協議会を開催！
- ・吉野川の治水の新たな課題に取り組んでいきます  
～堤防の侵食対策と地震・津波対策の推進～（ニュースレター 第1回吉野川学識者会議）
- ・重要水防箇所合同巡視
- ・中島地区河川防災ステーション（美馬市）整備計画の承認報告式が行われました！ **（案内図④）**
- ・国土交通省・徳島県の合同で「排水ポンプ車操作訓練」を実施しました **（案内図⑤）**

【現場だより】

- ・肥料パトロールを実施しました (案内図⑥)
- ・吉野川の被災箇所を上空から早期に発見します!

## 【イベント情報】

- ・吉野川流域の夏イベント情報！

【案内図】







## ✿ 自然と歴史あふれる川に近づけるまち ✿

平成18年3月1日に旧三好町と旧三加茂町が合併して誕生した東みよし町。徳島県の西北部に位置し、北には、阿讃山脈、南には、急峻な四国山地を有し、町の中央部には、吉野川が西から東に流れている町だ。

四国のほぼ真ん中に位置し、徳島自動車道吉野川ハイウェイオアシスには、ETC専用レーンが設置され、四国の県庁所在地すべてに1時間半以内で到着することのできる大変交通の便がいい場所でもある。吉野川ハイウェイオアシスやぶぶるパークみかもでは、吉野川の水に直接触れることもでき、国の特別天然記念物「加茂の大クス」は、1000年以上の間、住民たちを見守っている。

このような豊かな自然あふれ、四国の高速交通の中心となっている東みよし町をたずねた。





写真上：上空から眺めた美濃田の淵と吉野川ハイウェイオアシス周辺写真  
写真下：吉野川ハイウェイオアシス 写真提供：東みよし町

## 吉野川とふれあえる唯一の サービスエリア

吉野川ハイウェイオアシスをたずねて



オアシス株式会社 代表取締役  
社長藤丸公志さん

「吉野川ハイウェイオアシスは全国でも数少ない、川と直接ふれあえるサービスエリアです」と語る藤丸社長。

目の前には雄大な吉野川と県の名勝・天然記念物に指定されている「美濃田の淵」がある。長さ2キロメートル、幅100メートルにわたる深い淵。「獅子岩」「鯉釣岩」「与作岩」「千畳敷」「雄釜」「雌釜」など、それぞれの形から名づけられた大きな岩の数々を眺めることができる。東西に流れる吉野川は、朝日も夕日も眺めることができ

る川。美しい夕日も  
ハイウェイオアシス  
から見るができる。

防災面でも配慮がされている施設だ。100年に一度訪れると言われている洪水の高さよりも高い位置にあり、自家発電装置も備え、自動車道で災害や、事故が発生した場合の避難場所にも指定されている。



景勝・美濃田の淵 四季折々に美しい表情が見られる。  
写真左は桜の頃。右は4月下旬から5月にかけての岩  
つつじ。写真右の提供：東みよし町



2000年3月にオープンしてから、毎年90万人～100万人が利用している。徳島からだけでなく、四国各地からも立ち寄りやすい所に位置している。徳島自動車道を利用するだけでなく、一般道路からも利用できることから、地元住民も数多く訪れている。



物産センター

約2500アイテムの四国各地の名産・特産品を取り揃えた「物産センター」、「農産物直売所」地元のそばや手打ちうどんが食べられる「みのだ亭」がある。2階は吉野川を眺めることができる展望デッキや、多目的ホール、フードコートなど、ゆっくりと時間を過ごすことができる。昨年の秋に改修された風呂施設「美濃田の湯」は、11種類のお風呂があり、ゆったりと流れる吉野川を眺めながらの露天風呂も人気だ。

イベント広場は、徳島県西部では唯一となる、阿波おどりが定期的に無料で見られる施設としても知られている。（毎年4月から10月の日曜日に開催）これからは、さらに滞在型でゆっくりとした時間をすごしてもらおうと、今年の7月上旬には今まであったキャンプ場の他に、ホテルが開業する。14部屋あり、1部屋につき1人から4人程度が宿泊できる。サービスエリアに車を停めたまま、一般道に下りずに宿泊ができる全国的にも珍しい施設となる。「これからも地域とともに、吉野川ともふれあえる開かれたサービスエリアとして、多くの人に何度も訪れてもらえるような施設にしたい」と藤丸社長。実際にお客様からも「吉野川で魚が飛び跳ねているのが見えました」と話しかけられることもあるそうだ。訪れるたびに違う表情が見られる吉野川。吉野川ハイウェイオアシスの今後の展開も楽しみだ。

吉野川ハイウェイオアシスの中の施設全体の名前が「吉野川ふれあい館」。

1階は、四国内の道路・観光情報、地域の情報等を知ることができる「観光情報ステーション」、



吉野川ふれあい館エントランスを入っていくとすぐに吉野川河口からの航空写真があり、今、自分がいる場所や、吉野川の流れがよく分かる。



阿波おどり定期公演。町内外を問わず多くの人が訪れている。

写真提供：吉野川オアシス株式会社



## アクセスマップ

### 吉野川ハイウェイオアシス

〒771-2502 徳島県三好郡東みよし町足代1650

TEL:0883-79-5858 FAX:0883-79-5859

施設により開館時間が異なるのでHP等でご確認ください。





## 備える 水防

### まもなくやってくる出水期に備えて

東みよし町 三庄東部自主防災会 会長 松浦 明さん



出水期には、いつも早明浦ダムの放流量を気にしているという松浦さん。防災会の方たちとは、お互いの健康を気にかけて、顔の見える連携をしているという。

「私は、50年前に東みよし町にきたんですが、よく洪水に悩まされました。一面が海のようになり、二階へ上がる階段ぎりぎりまで水がくることもたびたびで、怖かったですね」と語る松浦さん。現在は、山口谷堤防ができ、ここ数年安心できる生活が続いているという。

東みよし町では、南海トラフ巨大地震や自然災害などに備え、自治会単位で自主防災組織が設立されており、現在、87の自主防災組織が活動している。松浦さんは、その中の三庄東部自主防災会の会長をつとめられている。

おもな活動は、1年に一度の防災訓練だ。炊き出し、ロープワーク、AEDや担架の使い方、消火訓練など多岐にわたる。「ロープワークでは、洪水の時、流されている人には、こんなロープのくくり方をとか、ペットボトルを浮き輪代わりにする方法を教えてもらいました。いざという時役に立ちます」と松浦さん。日頃からの地道な訓練が

災害時、迅速な行動につながる。

東みよし町でも高齢者の独居世帯が増えてきている。時代とともに人と人のつながり、地域の連携が希薄になりつつある現代。しかし、災害時に力を発揮するのが、人と人のつながりだ。三庄東部自主防災会でも、役員会が中心となり、地域の安全マップを作っている。このマップには、家族構成のほか、高齢者、要介護者の有無も書き込む。日頃から、自治会内で、「元気にしようか」の声かけも忘れない。

まもなくやってくる出水期。松浦さんは、とにかく川や用水などに近づかないことという。また、道路が浸水し、通行止めの看板をおいても、浸水している中に入ってい



く車もあるそうだ。危険な行動は絶対にしないということを我々も心に刻みたい。

国土交通省防災エキスパートのロープワーク講習の様子。写真提供：三庄東部自主防災会。

## 吉野川スケッチ in ぶるパークみかも



吉野川の水にさわれるよ!



桑の実、発見。昔は子どもたちのおやつだったんだよ。



自然のなか、広々としたサッカー場は気持ちいい。



吉野川流域 未来へ残すこの逸品



## みかも桐下駄

汗を吸い取る吸湿性があり、軽くて、涼やか。きれいで長もち。これが桐下駄の特徴だ。可愛い鼻緒を眺めていると、浴衣を着て、出かけたくなった。徳島県でただ1軒残る桐下駄製造所。それが吉野川流域の東みよし町加茂に残っている。お話を伺った斉藤雄二さん。「最盛期は、40～50軒の下駄製造所があったんですよ」と教えてくれた。戦前、農閑期の収入源として、京都から職人を呼び技術を習得したのがはじまりだそうだ。

斉藤さんは、年間5万足から7万足の桐下駄を3名の職人さんとともに作る。鼻緒を付ける作業は内職の方に依頼している。かつては、生活必需品だった下駄。ライフスタイルの変化とともにファッション小物へと用途は変化しつつある。京都や東京など目の肥えた多くの取引先からは、ディティールや鼻緒のデザインに至るまで、細かい注文があり何度もやりとりを重ねる。

斉藤さん自身も多くのメーカーさんとの出会い、「ああ、こんな感覚って大事だな」「こんなものの見かたもあるのか」と気づきや発



吉野川でよく遊びましたよ。とおっしゃってくださった斉藤雄二さん。以前は、国産桐を使っていたが、国産桐は、なかなか入手できない現状から1割程度使用している。大量の注文に答えるため、厳選された中国産の桐材を使っているそうだ。



種類によって、8種類から10種類の工程がある。

見も多いという。その要望に応えていくことで、また自分が磨かれていくそうだ。ものづくりをしているものとして、下駄作りに決して手を抜かない、取引先、消費者のみなさんの要望に丁寧に応えていくことが一番大切なことと考え、日々仕事に向かい合う。また、毎年斉藤桐材工業有限会社のオリジナルデザインを作る。残っていくもの、残っていかないものがある。それでもそれを恐れず、新しい時代にあった商品を作りだしていく。

これからやってみたいことは?とお伺いすると、「下駄は、夏のものというイメージですが、秋から冬にはく下駄を作りたいですね。素足ではなく、足袋との組み合わせにより趣も変わってくると思います。かつて下駄屋は、正月前が一番忙しかったですよ。みんな下駄を履いて神社にお参りに行っていましたからね」。

斉藤さんのお話を聞いていると自分もワクワクしてくるから、不思議だ。常に挑戦を続ける斉藤さん。その思いがある限りこの地で桐下駄作りは続いていく。

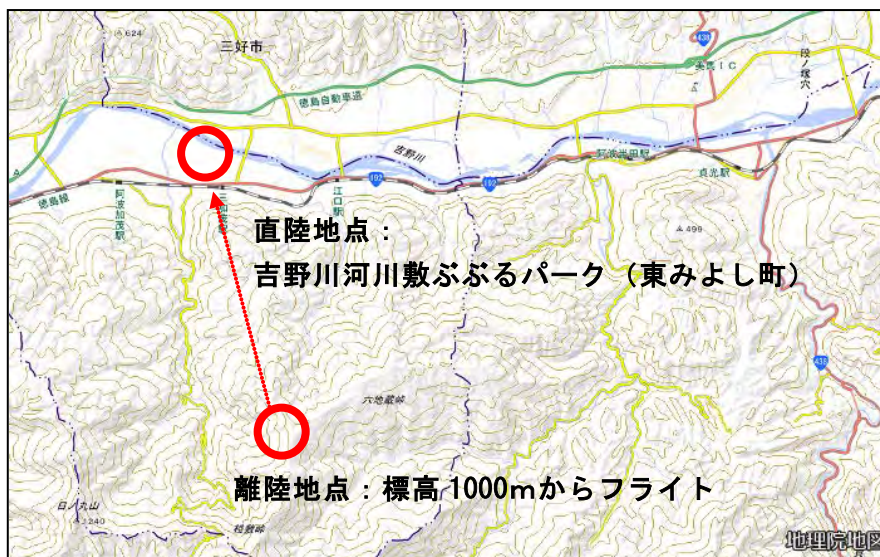


# 吉野川で遊ぼう！！



こんにちは。川遊び大好きアクティブ系河川管理者「遊び人のM」です。  
吉野川で遊ぼう！！では、自ら体験し、川を楽しみ、感じたことを発信します。  
第11回は「吉野川パラグライダー」です。

徳島県三好市・東みよし町を飛行エリアとして、パラグライダースクールを開校している「VAN スカイスports」さんで、インストラクターと一緒に空を飛べるタンデムフライトを体験してきました。



テレビで見たことがあるくらいの知識で、おそろおそろ電話すると「注意事項はいくつかありますが、簡単に飛べますよ。」とのこと。

## 【注意事項】

- 上空は寒いので長袖、長ズボンで。落とさないよう脱げにくい靴で。手袋もあるとよい。
- 飛べるかの最終決定は、前日 18 時の天気予報で決定。
- 気温が上がると、パラグライダーが高く上がりすぎるので早朝（7：00）集合



インストラクターの森さんより「4人ずつで順番にあの山から飛びます。移動に1時間かかるので、1時間後くらいに空を見上げてください。」と説明を受けしばらく待機。



着陸地点のぶぶるパークで説明



ここから飛ぶと思って聞いていた  
実際はこっちから離陸

インストラクター4人と体験者4人で、1時間車に揺られ離陸地点へ。車を降りて、離陸地点に登ると、すごい景色が待っていました。



遠くに吉野川が見えました

インストラクターより

- ・インストラクターは、天候の条件はあるが、スクールなどもあり、ほぼ毎日飛んでいる。  
(安心)
- ・カヌーやサーフィンは波に乘りますが、パラグライダーは風に乗るんですよ。  
(???でしたが体験してわかりました)
- ・登山してパラグライダーで降りる「ハイクアンドライド」も流行っています。  
(やってみたい)

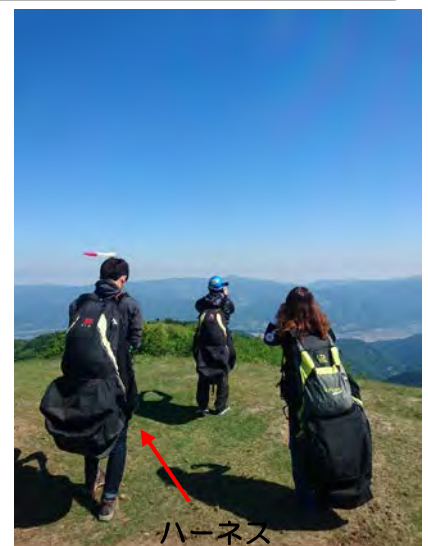
※( )はMの心の声

まず、人間とパラグライダーをつなぐ「ハーネス」を装備。リュックサックのように背負うとヤドカリのようです。

ハーネスとは「パラグライダーで空を飛ぶ時のイス」で、ハーネスに座ってパラグライダーを操作します。

パラグライダー本体は「キャノピー」と呼ばれます。

一人前とされるパイロットライセンスを取得するには1年くらいかかるそうです(月に2~3回程度の練習が必要)。



ハーネス

正直なところ、こんなところから飛べるのかと途方に促しています(笑)

さあ飛びますよ～



## 体験レポート（from まいまい）



はじめまして！まいまいです。

「遊び人 M with ゆかいな仲間達」で吉野川パラグライダーを体験してきました。

吉野川でパラグライダー？と思いましたが、この機会を逃したら、一生チャレンジする機会はないなあ〜と思い（高いところが苦手ではありますが）意を決して参加しました。

着地地点からフライト地点まで、車で山道を走ること1時間。

標高 1,000 メートルの地点から飛び立つわけですが、足下に広がるのは崖。崖に向かって真っ直ぐ走り、飛び降りることになります。

「本当にここから飛ぶの・・・」  
と胸がバクバクしました。

インストラクターからの指示は「体が浮いてからも5歩は駆け抜けて下さいね！」との一言。他のアドバイスは一切ありません。

ヘルメットをかぶってハーネスを装着し準備完了！なんとか笑顔をつくって恐怖心を抑えつつ、インストラクターから言われるままに、ダダダッと急斜面を駆け下りると・・・

「うわあ〜！」と思っているうちに体が浮き、飛んでいました。

その後は、インストラクターの巧みな技でグングン機体が上昇して行きます。高度 1300 メートルから広がるのは、吉野川の絶景。

機体が安定すると、自分で操縦もさせてもらえました。自分が行きたい方向に行って、まさに鳥になった気分です。パラグライダーに夢中になる人の気持ちが何となくわかりました。

着地の際は、「ドドドッ」と堤防の芝生の上におしりから着地。無事に生還しました！

初めてのパラグライダー。飛ぶ前は不安でいっぱいでしたが、着地後の一言目には「次はいつ飛ぼうか！？」と話していました。20 分足らずですが、夢のような時間を体験できました。

P.S.パラグライダーでの飛行を待つ合間に、パークゴルフでも遊びました！5月号に引き続き2回目の体験ですが、相変わらずのOB連発... ですが、みんなで一緒に体を動かし、ワイワイ笑って最高の休日を満喫できました。



飛ぶ前のこわばった笑顔。忘れません（笑）



飛んだ瞬間は、「うわわわわわわー」でした。

飛び立って3分もすると、緊張してガチガチだった身体から少しずつ力が抜け、まわりを見る余裕ができます。上昇気流によって高度1300mくらいまであがることができました。

パラグライダーからの景色



飛んでいるときインストラクターが「風が来ますよ～」と言うと、強い風が吹いて、グワッとパラグライダーが浮く。

…インストラクターには、風が見えるようです。



余裕のポーズ

飛行時間は20分。

説明を受けたときは「たった20分しか飛べないの」と思い、  
山に登って景色を見たときは「20分も飛んで大丈夫?」と思い、  
着陸寸前には「まだまだ降りたくないー」と思いました。

「吉野川は、空も川も青かったです」



## 吉野川歴史探訪 ヨハネス・デ・レーケ(その1)

お疲れ様です。別宮川三郎です。6月に入り梅雨入りしましたが、雨が全く降らず、どうなるかと思いましたが、6月20日夜遅くから21日の明け方にかけて雨が降り、流域は少し潤いました。しかし、雨の降り方が強烈で風も強く、まるで台風のような様子でした。

さて、国による吉野川の改修工事は、明治18年(1885)に手がかけられます。しかし、先月号で紹介した覚円騒動により、見るべき成果もなく僅か4年で中止になりました。この工事は、明治政府が招いた「お雇い外国人」、ヨハネス・デ・レーケが計画しました。デ・レーケが描いた計画とは、どのような内容だったのでしょうか？今月号は、当時の時代背景について探訪しましょう。

### 1. お雇い外国人、デ・レーケ到着

明治17年(1884)6月12日、徳島の古川港(現在の徳島市応神町周辺)にオランダ人の土木技術者ヨハネス・デ・レーケ(写真-1)が到着しました。

彼はいわゆる「お雇い外国人」のひとりです。明治政府は、日本の近代化を進めるために、欧米から鉄道・土木・軍事・学問など多岐にわたって多くの外国人専門家(お雇い外国人)を招き事業を進めていました。明治元年(1868)から明治22年(1889)までに政府、府県、民間が招いた人数は2299人にもものぼりました。鉄道関係にはイギリス人、工部省工作局はフランス人、北海道開拓にはアメリカ人というように適材適所につとめ、河川・港湾事業には、当時、世界一流の水準にあると考えられていたオランダ人が招かれました。



写真-1  
明治6年頃のデ・レーケ  
『デ・レーケとその業績』  
(国土交通省中部地方整備局  
木曾川下流河川事務所)より

まず、明治5年(1872)にファン・ドールンとリンドウの二人が来日。デ・レーケが招かれたのは、その翌年、31歳のときでした。以来、デ・レーケは淀川、木曽川、大阪港、福岡港、長崎港など全国の主要な河川・港湾の計画や工事に携わりました。

その彼が徳島に来たのは、国が行うことになった吉野川改修工事に先立って、内務省から吉野川の調査を命じられたからです。当時、国の土木行政は内務省土木局が司っていました。内務省に土木局が設置されたのは明治10年(1877)。それまで度々、機構や名称を変え試行錯誤が繰り返されていましたが、土木局の設置で、ようやく土木行政の骨格が定まりました。ちなみに土木局は、昭和22年(1947)の内務省廃止まで、わが国の土木行政機関の中核として活躍しました。

さて、明治政府はオランダ人の土木技術者の指導によって、全国の主要な河川の改修を行います。この頃、国が目指していた河川改修は、必ずしも治水を目的としたものではありませんでした。





写真-2  
デ・レーケが指導したと言われる砂防堰堤（美馬市脇町）



写真-3  
デ・レーケ公園にある石碑（美馬市脇町）

## 2. 舟運路の整備と低水工事

明治前期の国の河川改修は、舟運路を整備することに主眼を置いていました。その工事は「低水工事」と呼ばれ、水位が最も低いときでも船や筏が航行できるように整備することです。これに対して、洪水対策を目的とする堤防工事は「高水工事」といい、これは地方の府県にまかされていました。つまり、国は治水よりも舟運路の整備を急務と  
していたのです。それはなぜなのでしょう？

今日では忘れられていますが、鉄道が普及するまでは、わが国の長距離・大型輸送手段の主役は船舶でした。つまり近世から明治前期にかけては、舟運の時代であり、河川はそのための重要な交通網だったのです。

明治5年(1872)に新橋・横浜間に鉄道が開通したことからもわかるように、明治政府は早くから鉄道による近代的な輸送網の整備を目指していました。しかし、その実現には時間と経費がかかるため、当初はこれと並行して、近世以来の舟運を継承するかたちで、各地で港湾の建設や運河の開削を進めて行ったのです。

新政府が、淀川や利根川など全国の主要河川の改修に取り組みだしたとき、低水工事から始めたのは、舟運路を整備することによって、近代的な輸送体系を確立し交通基盤を整備するという国家的な課題があったからなのです。



### 3. 吉野川と舟運

舟運が盛んだったのは、吉野川の場合も例外ではありませんでした。徳島平野を貫流する吉野川は、古くから東西の物資輸送の大動脈として重要な役割を果たしていました。

流域には多くの川港があって、各地で産出される藍玉や煙草、砂糖、木炭、薪などが運ばれました。それらは、吉野川河口の撫養川口、今切川口、別宮川口などの港に積み下ろされ、そこから海上輸送で大阪に運ばれました。

また、反対に下流からは他国から入荷した干鰯、練粕、藍砂など藍生産に必要な物資や塩、ワカメ、雑貨が運ばれました。特に米作がほとんど行われていなかったため、米も多量に運ばれるなど、吉野川は流域住民の生活や生産のための大動脈でした。

吉野川で使われた川船は、平田船と呼ばれる船底の浅い、大きな帆を張った船で、一度に 600 貫から 1000 貫の積み荷を運ぶことができ、徳島・池田間を下りで2日から3日、上りは1週間から2週間を要したと言われています。

吉野川の途中には各所に川港ができ、その一つの岩津には今でも大きな常夜灯が立っています。こうした舟運は、近世から明治中頃まで発達し、最盛期には千艘近い川舟が行き来していました。明治 18 年(1895)で「川船 150 隻、一年間に 2 万回往復、総輸送量 200 万貫、客船 50 隻、利用客 6、7 万人」(徳島日日新聞)と言われています。

しかし、明治 33 年(1900)に徳島・船戸(川田)間、さらに大正 3 年(1914)に徳島・池田間の鉄道が開通するとこうした舟運は急速に衰退していくことになります。



写真-4 平田船

八反帆に吉野川の風をはらんで航行する平田船。昭和初期頃。





写真-5 岩津の常夜燈 じょうやとう

#### 4. デ・レーケ、吉野川の洪水にあう

こうした時代背景があって、吉野川で初めて国による本格的な河川改修が行われることになりました。わが国で最初の政府直轄の河川改修事業は、淀川の低水工事（明治7年）でした。その後、全国の主要河川の改修を順次行いますが、吉野川の工事は淀川に遅れること11年後の明治18年（1885）、国と徳島県が共同で行うことになりました。国が低水工事と砂防工事を、徳島県が高水工事を担当しました。

これに先立って、内務省土木局は明治16年（1883）に、徳島市富田浜に吉野川出張所を設置し測量を開始しました。そして、明治17年（1884）、デ・レーケに吉野川調査を依頼したのです。

徳島に着いたデ・レーケは、6月13日から7月4日までの約3週間、精力的に吉野川を調査しますが、調査中に吉野川の洪水に遭遇します。その時のことを「6月28日には、人を恐怖に落とし入れる洪水となり、このために数多く人命を失うに至った」と記し、「しかしながら、私は、これがためにかえってこの川が特異な状態に変化するのを視察する絶好の機会を得た」とも書き添え、吉野川の洪水特性を実体験で理解したのです。

デ・レーケの調査内容は、じつに広範囲で多岐にわたり、短期間でよくここまで調査したと思えるほどです。その項目は、吉野川流域、水源地の山岳、各支川、沿川の平地と河床、さらに岩津から下流の河床勾配、三角州、潮汐、灌漑用水、山地の景況、切畑など様々な観点から調査を実施しています。また、調査結果を基に吉野川の河川改修計画の基本的な骨子を提案しています。

来月号では、デ・レーケが作成した「吉野川検査復命書」について探訪しましょう。



## ～水害を我がこととしてとらえる～

水防災意識社会再構築ビジョン協議会構成機関の取り組み紹介【吉野川市】

「Our よしのがわ」では連載シリーズとして、吉野川沿川の14市町を対象に市町長の減災に対する考えや、取り組み内容をご紹介します。今回は、川真田吉野川市長に聴きました。

## (吉野川市位置図)



## (吉野川市)

※平成29年6月1日現在

- ・人口 42,088人
- ・世帯数 18,036世帯
- ・面積 144.14km<sup>2</sup>



吉野川市公式キャラクター  
ヨッピー（ブルー）  
ピッピー（ピンク）



市の花 キク



市の木 オンツツジ



市の鳥 カワセミ

## (吉野川市概要)

吉野川市は徳島県北部のほぼ中央、吉野川の中流域南岸に位置し、市の南部は四国山地の北部にあたる山地で、高越山をはじめ急峻な山々が連なっており、美しい清流「四国三郎」吉野川に育まれ、ホテルやつつじの大群生など四季おりおりの豊かな自然が息づいております。

## (吉野川市長の減災に対する考え)



吉野川市長  
かわまつ てるや  
川真田 哲哉

本市は、吉野川の南岸に約20kmに渡り接している関係で、吉野川に流れ込む河川の川田川・飯尾川・江川・岩屋川・ほたる川・桑村川等の中小様々な県管理河川が存在しています。このため、台風時にはこれらの河川の一部氾濫により市内の各地域において、内水による浸水被害が多く発生している状況です。

これまでの事例では、台風時には必ず避難所に避難される方もおいでになりますし、平成16年の台風23号では、鴨島町・川島町・山川町地区の平野部において大規模な浸水が発生し264戸の床上浸水、682戸の床下浸水等があり、災害救助法の適用を受けたこともありました。

本市の吉野川大規模水害対策については、「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」を定め、吉野川の岩津水位観測所における水位を判断基準とし、避難情報の発令などの対応を行うこととしていますが、前述にもありますように、内水氾濫により市内の各地域において浸水被害が多く発生している状況で、想定される最大規模の洪水が生じるような場合には、内水氾濫により指定避難場所に避難している方々や、既に自宅等で垂直避難（上層階へ移動し屋内での安全確保）を余儀なくされている方々に、更に他の場所に避難を要請することが生じ得る状態にあります。

もし万一、このような事態が生じれば、多くの市民が更なる危険な状況に陥ることが想定されますので、そういったことがないよう、市としても早め早めの対応を行い、市民に多くの情報発信を行うことにより早期の避難を促したいと考えています。また、普段から、市民に洪水による防災意識についても啓発を行っていきたいと考えています。

また、昨年見直された、吉野川における想定し得る最大規模の洪水を受けまして、「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」については、見直しは行っていますが、今後、指定緊急避難場所の検証・見直しを行っていかねばならないと考えていますし、広域的な避難についても検討を行っていかねばならないと考えています。

併せて、内水浸水対策も引き続き取り組み、大規模氾濫が想定される時に、少しでも住民の避難が容易に行えるように対策を行っていきたいと考えています。特に内水被害が頻発する飯尾川の改修については、早期実現に向けて県を始めとする関係機関と十分に協議を行っていきたいと考えています。



## (洪水氾濫シミュレーション)

平成 16 年 10 月に発生した台風 23 号の 2 倍の雨（想定最大規模降雨）が降った時に中央橋付近の堤防が決壊したら・・・

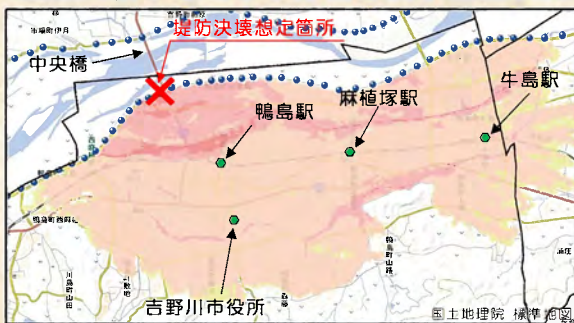
堤防決壊 10 分後の浸水想定状況



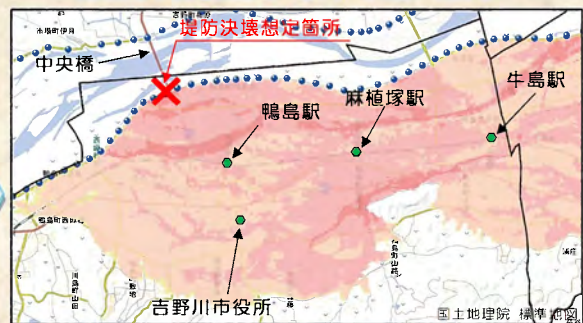
堤防決壊 30 分後の浸水想定状況



堤防決壊 1 時間 30 分後の浸水想定状況



堤防決壊後約 6 時間で最大浸水



【浸水深】 0.5m 未満 0.5m～3.0m 3.0m～5.0m 5.0m～10.0m

## (吉野川市における取組事例)

## 1 水防工法技術講習会の実施

吉野川市は、吉野川に注ぎ込む複数の県管理河川を有していることから、毎年、出水期を前にして、徳島河川国道事務所の指導の下、水防工法技術講習会を実施しています。

全ての消防団員が、様々な水防工法などを習熟することを目指し、今後も引き続き取り組んで参ります。

## 2 自主防災組織の育成

吉野川市は、全ての地区に自主防災組織が結成されており、それぞれの組織において様々な訓練・研修を実施しています。

訓練・研修には、防災企画監・危機管理監等を市から派遣し、自主防災組織の育成・強化に努めています。

## 3 災害時の情報伝達

吉野川市では、防災行政無線、防災・情報メール、放送事業者による TV 放送、ラジオ放送、緊急速報メール、市 HP、市内ケーブルテレビ局 2 社による字幕放送等を利用し、災害時の情報伝達を行っています。

特に、要配慮者利用施設には、防災行政無線の戸別受信機を設置し、災害時の情報伝達が速やかに行われるよう取り組んでいます。





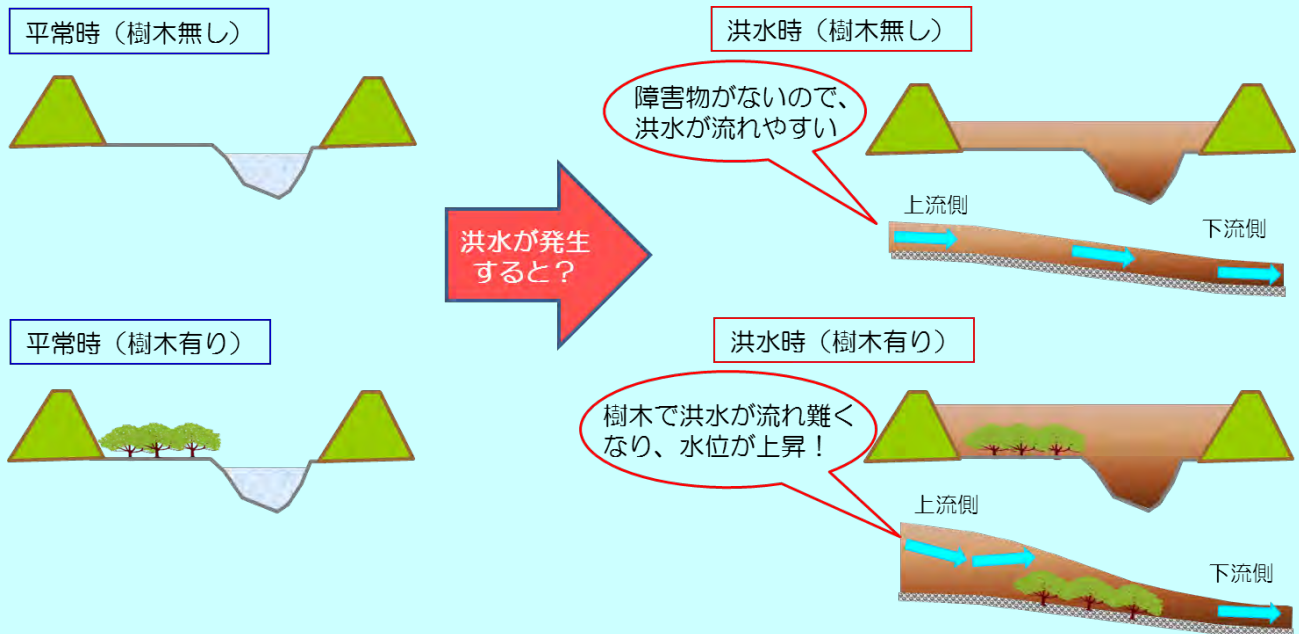
## 吉野川講座 （そうだったのか！？河川管理～樹木管理編～）

### ○河道内に樹木が<sup>はんも</sup>繁茂すると何が問題なのか？

河道内にある樹木は、洪水時に流れる勢いを<sup>かんわ</sup>緩和させる効果の他に、河川の生態系の保全や良好な景観を形成する等、重要な役割を持っている場合があります。一方で、河道内に樹木が繁茂しすぎることにより、洪水の流れを<sup>そがい</sup>阻害して<sup>すい</sup>水位の上昇を引き起こす他、川の流れを変化させて河岸や河床の<sup>せんくつ</sup>洗掘を助長する場合があります。また、樹木の根が成長することにより、堤防や護岸等の河川管理施設が<sup>そんしょう</sup>損傷するおそれがあります。

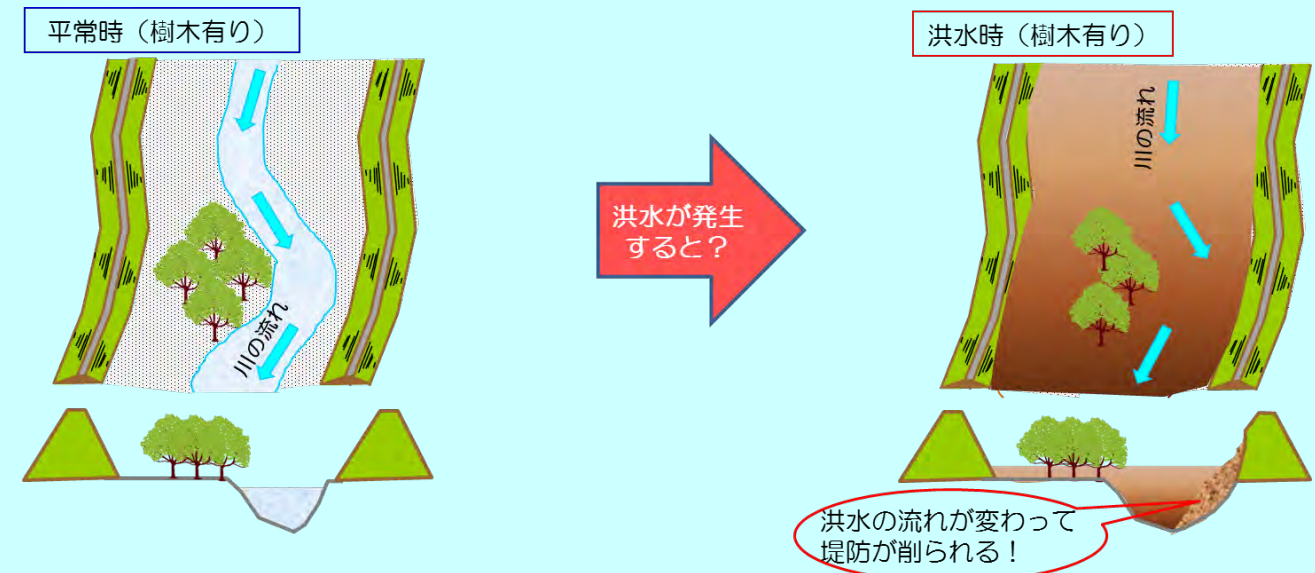
#### 【①洪水時に水位を上げてしまう樹木】

河原の樹木が密生することで、洪水時に水位が上がって堤防決壊の危険性が高まります。



#### 【②洪水時に川の流れを変えてしまう樹木】

河原に樹木が密生すると、洪水の流れが変わって堤防や護岸が削られます。

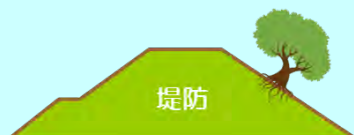




### 【③堤防や護岸を損傷してしまう樹木】

堤防や護岸に樹木の根が広がると、洪水で樹木が流された時に壊れます。

平常時（堤防に樹木）



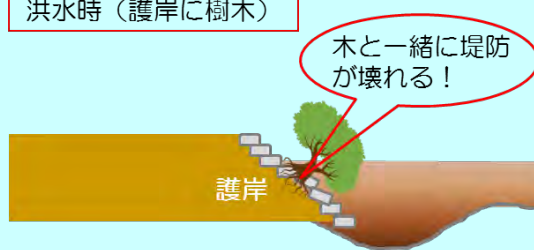
平常時（護岸に樹木）



洪水時（堤防に樹木）



洪水時（護岸に樹木）



洪水が発生  
すると？



写真－１ 砂州の樹木群（左岸 28k6 付近）



写真－２ 砂州の樹木群（左岸 34k6 付近）



写真－３ 護岸にある樹木群(左岸 11k6 付近)



写真－４ 法面の樹木群（左岸 40k2 付近）



## ○樹木伐採の手順

樹木伐採を行う前に、下草刈りなどの準備作業を行った後、チェーンソーにより伐採を行います。また、伐採した樹木は、バックホウにより集積し、運搬できる大きさに小割りして処分します。なお、河川敷に繁茂している樹木の多くはヤナギ類ですが、ヤナギ類は根を残した状態で伐採すると、数年後には元の大きさに戻ってしまいます。そのため、可能な限り除根を実施するほか、成長する前に伐採するなど、再繁茂を抑制する対策を実施しています。



写真－５ 人力による樹木伐採①



写真－６ 人力による樹木伐採②



写真－７ 機械による樹木の引抜き



写真－８ 機械による除根



写真－９ 伐採木の集積



写真－１０ 伐採木の運搬



## ○伐採後のモニタリング

樹木伐採後の状態把握については、河川巡視により樹木の再繁茂状況や河川管理施設への影響等を確認するとともに、伐採前後の定期縦横断測量結果から河道内の堆積や洗掘の変化傾向を把握する等、モニタリングにより河道状況の把握を行っています。



写真－11 砂州の樹木群（左岸 28k6 付近）



写真－12 法面の樹木群（左岸 40k2 付近）

## ○環境保全の取り組み

吉野川の砂州や河川敷には、徳島県や環境省のレッドデータブックで重要種として指定されている草本が確認されているほか、鳥類のねぐらや<sup>えいそうち</sup>営巣地として利用されている樹木群が存在していることから、樹木伐採を実施する前には、河川水辺の国勢調査結果を基に作成された『河川環境情報図』により重要種の有無等を確認するとともに、必要に応じて植物や鳥類などの専門家による現地調査等を実施しています。



写真－13 専門家による樹木調査

## ○コスト縮減の取り組み

伐採した樹木の枝葉や根茎の処分については、一般廃棄物として中間処理されていますが、幹については、コスト縮減を図るために一般の方々に持ち帰って頂く取り組みを行っています。また、河川管理上支障となる樹木群については、民間の力を活用する「公募伐採」を実施するなど、より効率的な河川維持管理に向けた地域協働の取り組みを進めています。



写真－14 伐採木の配布状況



# 平成29年度 吉野川・那賀川合同総合水防演習を開催！

【河川調査課】



開会式の状況

## ◇はじめに

出水期を前にした平成29年5月21日（日）、水防機関の連携強化、水防団の水防技術の習熟と関係機関および流域住民の水防意識高揚を目的として、徳島県徳島市住吉4丁目地先の徳島市民吉野川運動広場にて、67団体約700人、見学者等を含め総勢約2,000人が参加し、『平成29年度 吉野川・那賀川合同総合水防演習』を実施しました。四国での水防演習は昭和59年に吉野川から始まり、毎年四国四県を順に実施し、吉野川での水防演習は8回目となります。

## ◇水防工法実施訓練

吉野川・那賀川流域の13市町の水防団等による水防工法実施訓練は、準備工、堤防斜面の崩れ対策工、漏水対策工、越水対策工、緊急対策工に分けて実施しました。

今回の演習では、伝統的な水防工法を基本としながら、現代の技術を活用し、改良された最新の水防工法として「応急型木流し工」「応急型シート張り工」を全国で初めて演習に取り入れました。



応急型木流し工



応急型シート張り工



## ◇情報伝達訓練・ライフライン復旧・人命救助訓練など

- ・水防工法訓練の他に、刻々と変化する実際の洪水を想定し、徳島河川国道事務所長から徳島市長・藍住町長への情報伝達（ホットライン）訓練や徳島県知事から陸上自衛隊や四国地方整備局 TEC-FORCE への派遣要請訓練を実施しました。



情報伝達・派遣要請訓練実施状況

- ・浸水地域の被害によりライフライン障害が発生しているとの想定により、NTT西日本グループ、NTTドコモグループ、四国電力グループによるライフライン復旧訓練や洪水により流されてきた車両が国道を塞いでいるとの想定で、建設業協会の重機による道路啓開訓練など複数機関が連携した訓練を実施しました。



道路啓開訓練



ライフライン復旧訓練

- ・河川氾濫により住民が取り残され避難を求めているという事を想定し、陸上自衛隊ヘリによる孤立者救助訓練や徳島県警察による救命索を使用した人命救助訓練を実施しました。



陸自ヘリによる孤立者救助訓練



救命索による人命救助訓練

## ◇おわりに

四国地方も出水期を迎え、雨が多くなる季節になります。今回の総合水防演習を活かし、今後も関係機関と連携して、防災に万全の備えを行っていきます。

最後に、御協力頂きました参加機関および関係の皆様方にこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。



## 吉野川上流・下流大規模氾濫に関する 減災対策協議会 第3回協議会を開催！

～減災に向けた取組をさらに加速させるための協議を行いました～

【河川調査課】

◇平成29年5月22日、23日に第3回協議会を開催し、平成28年度に各構成機関が実施した取組や、平成29年度に取組む主なソフト対策について共有し、減災に向けた取組をさらに加速させるための協議を行いました。

○本協議会は、水防災意識社会を再構築するため、吉野川沿川14市町と徳島県、水資源機構、気象庁徳島地方气象台、国土交通省四国地方整備局で構成し、平成28年5月に設立したものです。

○平成28年8月に取組方針をとりまとめ、減災に向けたハード・ソフト対策を一体的、総合的、計画的に進めているところです。

### 【第3回協議会 開催概要】

○吉野川上流大規模氾濫に関する減災対策協議会

開催日時：平成29年5月22日（月）15：00 ～ 15：30

開催場所：つるぎ町就業改善センター 1階大会議室

＜協議会構成員＞

美馬市長、三好市長、つるぎ町長、東みよし町長、  
徳島河川国道事務所長、吉野川ダム統合管理事務所長、  
水資源機構 池田総合管理所長、  
気象庁 徳島地方气象台長、  
徳島県 県土整備部長、  
西部総合県民局 県土整備部＜三好庁舎＞部長、  
西部総合県民局 県土整備部＜美馬庁舎＞副部長、  
西部総合県民局 企画振興部＜美馬庁舎＞部長



第3回協議会（上流）の開催状況

○吉野川下流大規模氾濫に関する減災対策協議会

開催日時：平成29年5月23日（火）15：00 ～ 15：30

開催場所：松茂町総合会館 3階多目的ホール

＜協議会構成員＞

徳島市長、鳴門市長、吉野川市長、阿波市長、  
石井町長、松茂町長、北島町長、藍住町長、  
板野町長、上板町長、  
徳島河川国道事務所長、吉野川ダム統合管理事務所長、  
水資源機構 池田総合管理所長、旧吉野川河口堰管理所長、  
気象庁 徳島地方气象台長、  
徳島県 県土整備部長、東部県土整備局長、  
危機管理部 とくしまゼロ作戦課長、消防保安課長、  
東部県土整備局＜吉野川庁舎＞副局長



第3回協議会（下流）の開催状況

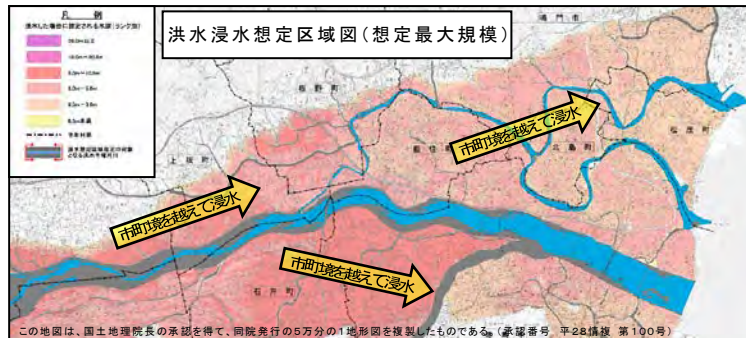


## ○平成２９年度に取り組む主なソフト対策

危機意識の高揚に向けた啓発活動、情報発信の強化を実施（「知る」ための取組）

◇広域的な危機管理演習の実施（平成29年度下流・右岸、平成30年度下流・左岸）

吉野川下流域において堤防が決壊した場合には、市町境を越え広範囲かつ長期に及ぶ浸水が予測されます。このため、市町境を越える氾濫に対して、人的被害の回避、被害の最小化を目指し、社会基盤の早期復旧を実現するため、関係機関参加の下、支川氾濫による水害から計画規模及び想定最大規模への水害の拡大に伴う段階的な住民避難などを組み込んだ実践的な広域演習を実施するとともに、広域避難のあり方についても検討します。



洪水に対してリスクの高い箇所で堤防が決壊した場合に、市町境を越え広範囲の浸水が予測される。

- ・地区全域が浸水すると予測される箇所においては広域避難の検討が必要である。
- ・被害の最小化を目指し、早期復旧の実現のため関係機関で実践的な演習が必要である。

※実施機関：徳島市、吉野川市、石井町、徳島県、水資源機構、気象庁、四国地方整備局

## ◇洪水リスクに関する住民意識調査の実施・公表（上流・下流）

○想定最大規模降雨の洪水に対して、人的被害の回避、被害の最小化、社会基盤の早期復旧を実現するためには、洪水特性・地域特性等に適応したソフト対策の実施が必要です。

○今後のソフト対策を推進するにあたり、吉野川流域の浸水区域内の住民を対象として、洪水に対する意識調査を実施します。

## ■アンケートの実施概要（案）

	内 容
実 施 時 期	平成29年6月頃配布、3週間程度で回収を予定
実 施 対 象	想定最大規模浸水想定区域
調 査 方 法	各自治体から対象地域の自治会を通じて配布予定
配 布 数	約7,000世帯

## ■アンケート調査項目（案）

	内 容
属 性	性別、年齢、お住まいの地域、水害の経験の有無 など
共 通 設 問	◆避難情報に関する理解度                      ◆情報伝達方法の充実度 ◆洪水リスクに関する認知度                   ◆避難行動の重要性に関する認識度 ◆水防活動の重要度                      など
地 域 別 設 問	◆各自治体の防災に関する取組の『認知度』『重要度』『満足度』 など

協議会資料等を見ることができるウェブサイト

○水防災意識社会 再構築ビジョンに関するウェブサイト

<http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/yoshinoriver/saikoutiku/taisakukaigi.htm>





# 吉野川の治水の 新たな課題に取り組んでいきます ～堤防の侵食対策と地震・津波対策の推進～

ニュースレターvol.4 平成29年度 第1回 吉野川学識者会議

吉野川における安全・安心の向上を図るため、堤防の侵食対策と、南海トラフ地震等を想定した堤防等の地震・津波対策を進めていくにあたり、学識者の意見をうかがいました。

平成27年度に実施した河川整備計画点検において、堤防の侵食対策及び地震・津波対策については、吉野川学識者会議に部会を設置し、意見を伺いながら検討を進めることとしました。

平成28年度に部会を開催し、検討した侵食対策及び地震・津波対策について、今回、吉野川学識者会議に報告し、意見を伺いました。

その結果、本会議で議論した内容は非常に重要なことであり、整備計画の変更においても、しっかりと反映していただきたいとの意見をいただきました。

今後、河川整備計画の変更原案において反映を予定しています。

□開催日時：平成29年5月25日（木）

10:00～12:00

□開催場所：徳島県郷土文化会館

（4階 大会議室）

□出席委員：15名

□傍聴者：8名



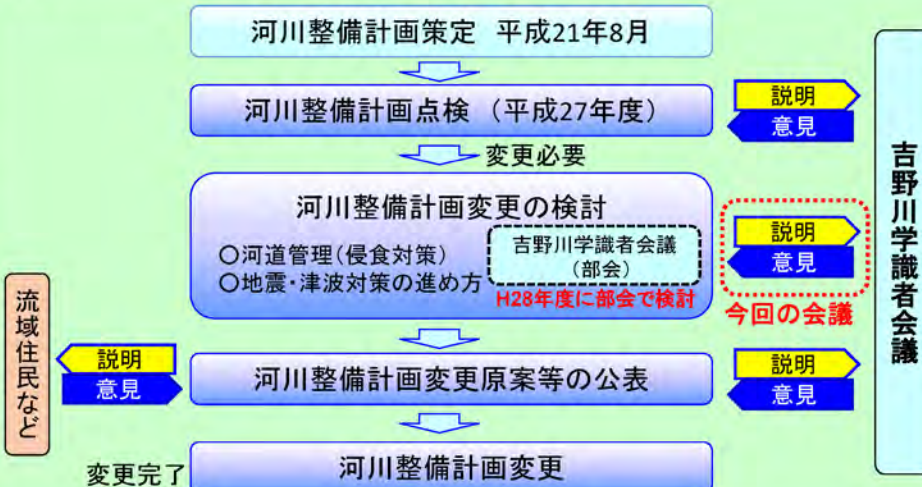
吉野川学識者会議 委員名簿

氏名	専門分野	所属	氏名	専門分野	所属
池田 早苗	水質（水環境）	徳島大学 名誉教授	田村 隆雄	治水計画（森林水文学）	徳島大学大学院 准教授
渦岡 良介	地盤工学・地震工学	京都大学防災研究所 教授	田村 典子	児童教育	四国大学生活科学部 教授
角道 弘文	農業水利	香川大学工学部 教授	中野 晋	沿岸域工学	徳島大学環境防災研究センター 教授
鎌田 磨人	生態系管理（生態学）	徳島大学大学院 教授	中村 昌宏	地域経済	元徳島文理大学総合政策学部 学部長
河口 洋一	魚類学	徳島大学大学院 准教授	平井 松午	歴史地理学・歴史GIS	徳島大学大学院 教授
木下 覺	植物分類学	徳島県植物研究会 会長	三神 厚	防災対策（地震）	東海大学工学部 教授
上月 康則	水環境（環境工学・生態系工学）	徳島大学環境防災研究センター 教授	武藤 裕則	洪水防衛（河川工学・水理学）	徳島大学大学院 教授
小林 寛	鳥類	河川・溪流環境アドバイザー	大和 武生	文化史・文化財	阿南市文化協会 会長
田中 俊夫	地域福祉	徳島大学 教授	山中 英生	地域づくり	徳島大学大学院 教授

※角道委員と河口委員と田村（典）委員は所用により欠席となりました。欠席された委員には事務局より事前に意見を伺い、会議の中で議長へ報告しました。



# ●吉野川水系河川整備計画点検及び変更の流れ



## ●吉野川学識者会議のご意見

### 1. 吉野川の河道管理（侵食対策）について（案）

- みお筋は絶えず変化するものであるため、みお筋の経年的な平面変化も加えて総合的に評価すべき。
- 西原箇所ではハード対策実施後にもモニタリングをすることとしていることから、「侵食リスクが高い箇所の抽出及び評価の考え方フロー」においてもハード対策後のモニタリングの実施を明記することが望ましい。
- 本会議に提案された「吉野川の河道管理（侵食対策）について（案）」を了承する。

### 2. 吉野川地震・津波対策の進め方に対する評価手法について（案）

- 具体的な対策においては、県管理の支川堤防の沈下、支川からの氾濫を考慮し、他事業との調整をお願いしたい。
- 施設整備の対象とする津波と昭和南海地震による優先される事象としての津波の関係性について確認出来た。
- 洪水対策の整備として河川整備計画に位置付けられている区間と、優先度の評価対象となる区間について、違いが分かりにくいので、分かり易い工夫をお願いしたい。
- 本会議に提案された「吉野川地震・津波対策の進め方に対する評価手法について（案）」を了承する。

### 今回の会議のまとめ

- 本会議において、「吉野川の河道管理（侵食対策）について」、「吉野川地震・津波対策の進め方に対する評価手法について」について了承をいただきました。
- 本会議での結論は非常に重要なことであり、吉野川水系河川整備計画の変更においても、しっかりと反映していただきたいとの意見をいただきました。

●【平成29年度 第1回 吉野川学識者会議】の会議資料は、徳島河川国道事務所のウェブサイトからダウンロードすることができます。

編集：発行：国土交通省四国地方整備局  
住所：徳島県徳島市上吉野町3丁目35

徳島河川国道事務所 <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>  
電話番号：088-654-2211（代表）



# 重要水防箇所合同巡視

【河川調査課】



合同巡視状況(H29.6.6 美馬市)

## 重要水防箇所とは？

重要水防箇所とは、洪水時に堤防が崩れたり、洪水が堤防を越えたりするなどの恐れがあり、重点的な見回りや点検が必要な箇所です。

洪水時には、水防団の方々が土のうを積むなどの、水防活動の最前線にもなります。

重要水防箇所に設定している箇所は、現地に杭などで表示しています。

## 重要水防箇所合同巡視とは？

河川管理者(国交省)と、水防活動を行う各市町及び地元水防団等が、台風や前線等に伴う出水に備え、重要水防箇所を確認し、水防体制の強化を図ろうとするものです。

吉野川・旧吉野川・今切川では、平成29年6月1日から6月13日にかけて、6市8町において重要水防箇所合同巡視を行いました。(重要水防箇所 延長 吉野川：約79km、旧吉野川：約36km、今切川：約13km)



重要水防箇所の表示杭



合同巡視状況(H29.6.5 吉野川市)



# 中鳥地区河川防災ステーション（美馬市） 整備計画の承認報告式が行われました！

【工務第一課】

中鳥地区河川防災ステーション（美馬市）整備計画が、国土交通省水管理・国土保全局長から承認されたことを受け、5月17日に美馬市役所で承認報告式が行われました。

承認報告式では、島本徳島河川国道事務所長の中鳥地区河川防災ステーション整備計画の説明及び承認の報告に続き、藤田美馬市長から「河川防災ステーションは洪水時において、水防団の活動拠点として非常に有益な施設、平常時においても防災意識啓発の場や地域に密着した行事などのレクリエーションの場としても活用を期待しています。」との挨拶がありました。

今後、徳島河川国道事務所と美馬市では、この整備計画に基づき連携して施設整備を行っていくこととしています。

## 中鳥地区河川防災ステーション承認報告式



位置図



## 施設配置計画



◇河川防災ステーションは、洪水時の水防活動や災害が発生した際の緊急復旧活動に必要な資材であるコンクリートブロックや土砂を備蓄することができるとともに、ヘリポートも整備され、緊急時の活動拠点として活用されます。

◇また、平時には水防訓練などを通じた防災啓発や防災教育の場としての活用や、レクリエーションの交流拠点として活用されます。

◇既存の石井地区河川防災ステーションが下流部を受け持ち、中鳥地区河川防災ステーションが上流部を受け持つことで、洪水時により迅速な対応が可能となります。



## 国土交通省・徳島県の合同で

### 「排水ポンプ車操作訓練」を実施しました。

【実施日時】平成29年5月31日（水）午前9時～午後3時

【実施場所】阿波中央橋下流の吉野川市鴨島運動場



本年も6月1日から梅雨、台風による本格的な出水期が始まりました。

そこで、災害時出水時に迅速な対応等で被害軽減を図るために排水ポンプ車訓練は、毎年出水期前に行っております。

訓練は、排水ポンプ車7台と照明車2台を使用し、3種類の排水ポンプ車で据付から撤去までの作業を繰り返し行うことで準備、操作手順等を身につけることを目的としています。

本年の参加者数は昨年より増えて、136名の方が参加・見学をして下さいました。

昨年も9月に発生した台風16号に排水ポンプ車を出動させ内水排除を行いました。

最近では、3年前の平成26年の出水期に3回排水ポンプ車を出動させ、内水排除を行いました。また、6年前の平成23年3月に発生した東日本大震災の被災地において、津波により浸水した被災地の排水作業に、徳島河川国道事務所からも排水ポンプ車が派遣され、関係業者の協力のもと震災後の復興に役立ったのも記憶に新しいところです。

冒頭でも述べましたが、6月より出水期に入るため、今回の訓練での経験を生かせるよう精進して参りたいと思います。



開会式



排水ポンプ車



ホース設置



ポンプ据付



ポンプ排水



訓練(全景)



## 肥料パトロールを実施しました

【河川占用調整課】



吉野川では河川敷地を利用した農業が営まれ、有機質肥料等が多く施用されていますが、一部耕作地では、肥料の野積み、不十分な鋤込みによる臭気発生や汚物化、肥料流出による水質悪化により、周辺環境の保全に影響を及ぼすなど、不適切な河川敷地利用の状況が見受けられます。

このため国土交通省徳島河川国道事務所では、徳島県農林水産部と合同でこのような不適切な肥料施用の是正のために、吉野川における肥料パトロールを行いました。

肥料パトロールは平成19年より実施しているもので、今年が11回目となります。

実施日：平成29年5月25日（木）

実施場所：吉野川下流

実施者：国土交通省、徳島県

実施結果：当日は野積みや鋤込み不十分な耕作地が見受けられ、不適切と判断した9件については、経過観察と適切な肥料施用を指導しました。



肥料パトロールの状況



肥料過多の耕作地



野積みされた肥料



パトロール記録の作成

徳島河川国道事務所では、今後も関係機関と協力し、良好な河川環境の保全に努めてまいります！



## 吉野川の被災箇所を上空から早期に発見します！

～直轄河川管理における対空標示（ヘリサイン）～

【吉野川上板出張所】

### ○整備の目的

地震や出水等により災害が発生した際には、早期に被災状況を把握する必要があります。また、河川管理施設が被災している場合は、復旧計画等を策定する上でも被災箇所の特定が重要となります。そこで、被災状況を調査するための有効な手段としては、防災ヘリコプター等による上空からの被災状況等の情報収集が行われています。一方で、上空から被災状況を調査する際に、現地の状況をよく知らない調査員が行うことも想定される他、河川周辺には目印となる建物等が少なく、似たような地形や景観が続く場合もあることから、被災箇所の特定や被災状況の把握等を迅速に特定することが難しい場合も想定されます。

そこで、防災ヘリコプター等による上空からの情報収集を迅速に行う為に、堤防等の直轄管理施設に『対空標示』（ヘリサイン）を設置することになりました。

### ○対空標示の内容

- ・文字サイズは、ひらがな・漢字は縦3m×横3m、英数字は縦3m×横1.5m程度を標準としており、文字の色は、白色を標準としています。
- ・距離標示は、防災ヘリコプター等の飛行速度を考慮し、左右岸とも1km間隔で千鳥に整備することを基本としていますが、堤防の道路利用状況等を考慮して標示しています。なお、距離標示は、左右岸（吉野川では「左岸：L」・「右岸：R」、旧吉野川では「左岸：KL」・「右岸：KR」、今切川では「左岸：IL」・「右岸：IR」）を意味するアルファベット記号と距離標の数字を組合せて標示しています。
- ・河川名は、防災ヘリコプター等が河口から上流へ飛行することを想定して、河川位置が把握しやすい河口部に標示します。（※吉野川は、来年度以降に設置する予定です。）
- ・施設等の設置箇所は、上空からの視認が容易で分かりやすい排水ポンプ場「〇〇P」と防災ステーション「防災ST」が対象であり、施設内の舗装に標示しています。

### ○対空標示の種類

- ・河川堤防の位置が分かるように、河口からの距離を左右岸に分けて標示します。
- ・どこの河川かが分かるように、河川名（よしの川）を標示します。
- ・目標物となる施設が分かるように、排水ポンプ場の施設名を標示します。



写真-1 施工状況（排水ポンプ場）



写真-2 設置状況（河川名）









図－3 吉野川の対空標示設置箇所（21K～32K）



図－4 吉野川の対空標示設置箇所（33K～40K）



図－5 吉野川の対空標示設置箇所（41K～49K）



図－6 吉野川の対空標示設置箇所（52K～60K）



図－7 吉野川の対空標示設置箇所（63K～65K）





図一8 旧吉野川・今切川の対空標示設置箇所（OK～12K）



図-9 旧吉野川の対空標示設置箇所（13K～24K）





## 吉野川流域の夏イベント情報！



6月も終わりに差し掛かり、日ごとに暑くなってまいりました。もう半月後には、子ども達が待ちに待った夏休みが始まる時期になりました。皆さんは夏の予定はありますか？

今回は、夏を先取りした「吉野川流域の夏イベント情報」をご紹介します！！

イベント名	開催日	開催場所	内容
水生生物調査	6月下旬 ～ 8月上旬	角の浦大橋上流、美馬橋下流、 穴吹新橋上流、西条大橋上流、 学島橋下流	小学生等を中心に吉野川等の5ヵ所で 水生生物による簡易水質調査を実施。
吉野川一斉清掃	7月2日（日）	吉野川・旧吉野川・今切川 ※詳細はHPをご覧ください	美しく親しみやすい吉野川の環境を保 全・再生するため、地域と一体となっ て、吉野川河川一斉清掃を実施。
水辺で乾杯 in 新町川	7月7日（金）	新町川水際公園 両国栈橋 （徳島市南内町）	ドレスコードの「白」を身にまとい、 『タナバタイム』にみんなで乾杯！
遊ばんでえ2017	7月23日（日）	水辺の楽校 山川バンブーパーク （吉野川市山川町前川）	植物観察会、全日本ウォーターサバイ バル選手権、親子『竹』ふれあい教 室、ステージショー などなど
吉野川フェスティバル	7月28日（金） ～ 7月30日（日）	吉野川グラウンド （吉野川橋南岸河川敷広場）	ライブ、ダンス、花火、阿波踊り、 吉野川遊覧 などなど
第9回 吉野川であそぼう	8月3日（木）	ゆうゆうパーク前 吉野川河原 （つるぎ町貞光大須賀）	イカダレース&川遊び、鮎のつかみ取 り、水難事故防止講習会 などなど
交流体験 in よしのがわ （上流編）	8月6日（日）	早明浦ダム （高知県土佐郡土佐町）	・早明浦ダム見学 ・水難事故防止講習会
交流体験 in よしのがわ （下流編）	8月25日（金）	鮎喰川・梁瀬橋付近 （徳島市入田町）	・おさかな博士の川魚かんさつ ・水難事故防止講習会
交流体験 in よしのがわ （中流編）	8月27日（日）	AMEMBO事務所 （美馬市美馬町中島地先）	・カヌーに乗ってみよう！ ・水難事故防止講習会



交流体験 in よしのがわ(下流編)  
「水難事故防止講習会」



吉野川フェスティバル  
「SUPマラソン」



吉野川で遊ぼう  
「イカダレース」

今夏は、吉野川の雄大な景色を感じながら、夏を楽しんでみてはいかがでしょうか。



## 吉野川 Diary

今月号いかがでしたか。  
このコーナーでは誌面に掲載し  
れなかった話題をお届けします。

### 樹齢1000年を誇る「加茂の大クス」



毎年、掛け替えられているしめ縄

今回「吉野川お散歩紀行」で訪れた東みよし町。吉野川の近く、加茂・古川地区に「**加茂の大クス**」があります。大正15年(1926)に内務省告示第58号 代表的巨樹として天然記念物指定、昭和31年(1956)に文化財保護法により国指定の特別天然記念物に指定されました。みなさん、ご覧になったことはありますか。推

定樹齢は何と千年あまり。東みよし町の計測によると(平成19年11月計測)、幹周りが16.72m、樹高26m、枝張り(樹木の枝の広がり具合)東西52m、南北42m。大きな存在感で迎えてくれます。

地元の「大楠保存会」等のボランティア団体による定期的な清掃活動や、毎年12月には同保存会が、長さ約17m、重さが約300キロもある「しめ縄の架け替え」を行っています。大楠の下にいただけ気持ちりがゆったりとできる癒やしの場です。

### 「Our よしのがわ」編集後記

我が家の庭にあじさいが、きれいに咲いています。今年は梅雨になってもなかなか雨が降らず、朝夕せつせと水やりに励みました。水やりは嫌いではないのですが、やっぱりあじさいには、雨が似合います。農家のかたも、水がいちばん必要な時期。梅雨は、梅雨らしくあってほしいものです。

読者の皆様、今月号いかがでしたか。「この記事が良かった。」「これもとってあげてほしい。」といったご意見がありましたら下記までお寄せください。(姪と祖)

【発刊】；国土交通省四国地方整備局 徳島河川国道事務所

【編集】；Our よしのがわ編集委員会

〒770-8554 徳島県徳島市上吉野町3-35

TEL (088) 654-9175 (直通)

FAX (088) 654-9177

E-mail: skr-tokusa63@mlit.go.jp

HP アドレス <http://www.skr.mlit.go.jp/tokushima/>



#### 【Our よしのがわ編集委員会】

- |        |        |
|--------|--------|
| ・西山 修  | ・入江 正利 |
| ・青木 研  | ・北川 誠純 |
| ・梶取 真一 | ・松坂 幸二 |
| ・浅田 聖一 | ・箸方 紀彦 |
| ・青木 朋也 |        |
| ・安永 一夫 | ・松山 芳士 |